



## 地域の人が集う場としての 三吉神社再考

昔は祭り以外に集会所としても使われるなど、地域の人が集う場であった神社。そこで共有された知恵や知識は、自然と下の世代にも受け継がれ、人々の温かみあるつながりがそこに形成されていた。「さんきちさん」という愛称で親しまれる三吉(みよし)神社を通して、今もう一度人が集う場としての神社について考える。

「緊張のせいか、何を話したのか覚えていないんです」と佐藤元昭氏は笑った。先日開催された、ある授業を振り返ってのことである。平成22年5月8日。例大祭を次週に控えた三吉神社で、生涯教育を推進する団体である札幌オドリ大学による、「みんなの神社 ～実は身近な存在です。神社とまちとの深い関係～」という授業が開催された。札幌市鎮座 三吉神社 権禰宜の原田年雅氏と佐藤元昭氏、そして札幌四番街商店街振興組合副理事長の坂本晴則氏を講師に迎えたこの授業には、若者から親子連れ、ご年配の方まで幅広い年齢層の方々が参加した。授業の様子は札幌オドリ大学のホームページに掲載されているので、詳細はそちらにお任せするとして。中でも印象的だったことは、権禰宜のお二人が生徒の方々と談笑している姿。「本来であれば、神社というものは人々にとってとても身近な存在なのです」と原田氏は語る。何か悩みがある時には神職に相談に乗ってもらったり、子どもが生まれた時には名前をつけてもらったり。気軽にお茶を飲みながら何気ない会話を交わすような、一生を通して行き来があるような場が神社であっ

た。今回の授業は、都会で暮らす私達の生活から離れてしまった神社という存在を、昔のように近く感じる一つのきっかけになったのではないだろうか。

また、同じく講師として昔の街並を紹介してくれた坂本氏は、「まちのことや神社のことを、少しでも多くの人達に知ってもらいたい機会でした」と語る。地域に暮らす先輩達から、その土地の記憶を受け継ぐことで芽生えるまちへの愛着。今では難しくなってしまった世代間を越えたコミュニケーションが、昔は神社という場を通して自然と行われていたのである。今回の授業の締めくくりとして、5月15日に開催された例大祭では、生徒の中から数名とボランティアスタッフの学生、そして札幌オドリ大学学長の猪熊梨恵氏が神輿渡御に参加した。「今回の三吉神社例大祭に関わらせて頂いて、やっとまちの1人として生きていることを実感しました。このまちの歴史を知り、引き継いでいくこと。まちの景色はこんなにも有機的で、たくさんの人に見守られているのだということに気づき感動しました。自身も初めて神輿を担いだという猪熊氏の言葉が、人が集う場としての神社の本質を物語っているように思えた。

札幌オドリ大学  
<http://odori.univnet.jp/>

### 【三吉神社 INFORMATION】

札幌市鎮座 三吉神社 / 札幌市中央区南1条西8丁目17 TEL 011-251-3443  
明治11年に秋田から移住してきた人々が、故郷秋田の三吉大神の分霊を奉じての、豊平河畔での奉斎に始まる。翌12年には現在地に移り三吉神社と称され、以来札幌の鎮守神として崇敬を集める。